

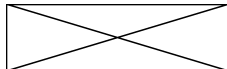
# CambridgeUS のシンプル設定

ロゴも入る

あなたのお名前<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 所属している団体名 (1 人なら\inst{1}は不要)

発表する研究集会情報や日付など



# 目次

1. 最初の節

2. 次の節

# はじめの1歩

Beamer で作った PDF は, 全画面表示やプレゼンモードで使っていく. 詰め込まないようにした方が綺麗に見える. 詰め込むときは, 図示や文字サイズなど工夫した方が良い. 聴講者や発表会場によっても文字サイズは変わってくるかもしれない.

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{A} & & \\ \downarrow & \searrow \iota_{\mathcal{A}} & \\ \mathcal{D}b & \xrightarrow{\iota_{\mathcal{D}b}} & \mathcal{B}. \end{array}$$

定義 (定義の名前 \* 無くてもよい)

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して, 次が成り立つ.

$$a^2 \geq 0.$$

より詳しくは 参考になる文献<sup>1</sup> を参照.

<sup>1</sup>[1] 著者. 本のタイトル. 出版社, 出版年 1900.

# はじめの1歩

Beamer で作った PDF は, 全画面表示やプレゼンモードで使っていく. 詰め込まないようにした方が綺麗に見える. 詰め込むときは, 図示や文字サイズなど工夫した方が良い. 聴講者や発表会場によっても文字サイズは変わってくるかもしれない.

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{A} & & \\ \downarrow & \searrow^{L_{\mathcal{A}}} & \\ \mathcal{D}b & \xrightarrow{L_{\mathcal{D}b}} & \mathcal{B}. \end{array}$$

定義 (定義の名称 \* 無くてもよい)

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して, 次が成り立つ.

$$a^2 \geq 0.$$

より詳しくは 参考になる文献<sup>1</sup> を参照.

<sup>1</sup>[1] 著者. 本のタイトル. 出版社, 出版年 1900.

# その他の色確認

箇条書き (\itemize)

- 最初
- 真ん中
- 最後

かじょう

箇条書き (\enumerate)

- (i) 最初
- (ii) 真ん中
- (iii) 最後

block title

block body

alertblock title

alertblock body

exampleblock title

exampleblock body

## 参考文献

- [1] 著者名 1, 著者名 2, 著者名 3.  
本のタイトル.  
出版社, 出版年 1900 など.